

ポペット形ダイヤフラムバルブ SPD シリーズ

取扱説明書

SM-A46259



- 製品をご使用になる前に、本取扱説明書を必ずお読みください。
- 特に安全に関する記述は、注意深くお読みください。
- 本取扱説明書は必要なときにすぐ取出して読めるように、大切に保管してください。

はじめに

このたびは、当社のポペット形ダイヤフラムバルブ「SPD シリーズ」をお買求めいただきまして、誠にありがとうございます。本取扱説明書は本製品の性能を十分に発揮させるために、取付、使用方法などの基本的な事項を記載したものです。よくお読みいただき、正しくご使用ください。

なお、本取扱説明書は紛失しないように、大切に保管してください。

本取扱説明書に記載の仕様、外観は、将来予告なく変更することがあります。

- 本製品は制御弁(電磁弁や電動弁、エアオペレイト弁など)を使用するにあたって、材料や流体、配管、電気などについての基礎的な知識を持った人を対象にしています。制御弁についての知識を持たない人や十分な訓練を受けていない人が選定、使用して起こした事故に関しては、当社は責任を負いません。
- お客様によって使用される用途は多種多様にわたるため、当社ではそれらのすべてを把握することができません。用途、用法によっては流体、配管、その他の条件により性能が発揮できない場合や事故につながる場合があります。用途、用法にあわせてお客様の責任で、製品の仕様の確認、使用方法の決定を行ってください。

安全にご使用いただくために

本製品を使用した装置を設計、製作する場合は、安全な装置を製作する義務があります。そのためには、装置の機械機構と、空気圧制御回路または水制御回路、これらを電気制御するシステムの安全性が確保できることを確認してください。

装置の設計、管理などに関する安全性については、団体規格、法規などを必ずお守りください。

ISO 4414、JIS B 8370、JFPS 2008(各規格の最新版)

高圧ガス保安法や労働安全衛生法、その他の安全規則、団体規格、法規など

当社製品を安全にご使用いただくためには、製品の選定、使用、取扱い、保安全管理を適切に行うことが重要です。

装置の安全性確保のために、本取扱説明書に記載の警告、注意事項を必ずお守りください。

本製品にはさまざまな安全策を実施していますが、お客様の誤った取扱いによって事故につながる場合があります。そのようなことがないためにも、

必ず本取扱説明書を熟読し、内容を十分に理解したうえでご使用ください。

注意事項は危害、損害の大きさと発生の可能性の程度を明示するために、「危険」「警告」「注意」の3つに区分されています。

 危険	誤った取扱いをすると、人が死亡する、または重傷を負う危険が差迫って発生することが想定されるもの。
 警告	誤った取扱いをすると、人が死亡する、または重傷を負う可能性が想定されるもの。
 注意	誤った取扱いをすると、人が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性が想定されるもの。

なお、「注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも重要な内容を記載しているため、必ずお守りください。

その他、一般的な注意事項や使用上のヒントを以下のアイコンで記載しています。



一般的な注意事項や使用上のヒントを表します。

製品に関する注意事項

警告

取扱いは十分な知識と経験を持った人が行う。

本製品は、一般産業機械用装置・部品として設計、製造されたものです。

製品の仕様範囲内での使用を守る。

製品固有の仕様外での使用はできません。また、製品の改造や追加工は絶対に行わないでください。

本製品は一般産業機械用装置・部品での使用を適用範囲としているため、屋外、次に示すような条件・環境で使用する場合には適用外とさせていただきます。

(ご採用に際し当社にご相談いただき、当社製品の仕様をご了解いただいた場合は適用になります。ただし、その場合でも、万一の故障に備えて危険を回避する安全対策をとってください。)

- 原子力や鉄道、航空、船舶、車両、医療機械、飲料・食品などに直接触れる機器や用途での使用。
- 娯楽機器や緊急遮断回路、プレス機械、ブレーキ回路、安全対策用など、安全性が要求される用途での使用。
- 人や財産への大きな影響が予想され、特に安全が要求される用途での使用。

安全を確認するまでは、本製品の取扱い、配管・機器の取外しを絶対に行わない。

- 機械、装置の点検や整備は、本製品が関わるすべてのシステムの安全が確保されていることを確認してから行ってください。また、エネルギー源である供給空気や供給水、該当する設備の電源を OFF にし、システム内の圧縮空気は排気し、水漏れ、漏電に注意してください。
- 運転停止時も、高温部や充電部が存在する可能性があるため、本製品の取扱い、配管・機器の取外しは注意して行ってください。
- 空気圧機器を使用した機械、装置を起動または再起動する前に、飛出し防止処置などによりシステムの安全性が確保されているか確認してください。

廃棄に関する注意事項

注意

製品を廃棄するときは、廃棄物の処理や清掃に関する法律に準拠し、専門廃棄物処理業者に依頼して処理する。

設計、選定に関する注意事項

■ポペット形ダイヤフラムバルブ

警告

緊急遮断弁などの安全確保用バルブとしての機能が必要な場合は、確実に安全を確保できる別の手段を講じる。

本製品の仕様、お客様のシステムとの適合性をお客様の責任で確認のうえ、機器を選定し、取扱う。

誤った機器選定、取扱いは、本製品のトラブルのみならずお客様のシステムトラブルの発生原因になります。

本製品が故障した際に人や物等に悪影響を与えないよう、予め必要な措置を施す。

周囲環境について、下記の注意事項を守る。

- ・ 製品構成材料と雰囲気との適合性を確認のうえ、使用してください。
- ・ 製品本体には、流体が付着しないようにしてください。
- ・ カタログに記載の周囲温度の範囲内で使用してください。
- ・ 振動、衝撃の影響を受ける場所、熱源の周辺、屋外では使用しないでください。

液封の回路になる場合には、逃し弁を設ける。

バルブが開閉動作するときにダイヤフラムが上下動することにより、その分バルブ内の流路容積は変化します。流体は非圧縮性(液体)であるため、バルブに流体が密封される条件(液封)では、バルブに異常な圧力が発生することになります。このような場合はバルブの一次側または二次側に逃し弁を設け、液封の回路にならないようにしてください。

使用流体によって、以下の点に注意する。

製品構成情報と使用流体との適合性をご確認の上ご使用ください。

カタログに記載の流体温度で使用する。

カタログに記載の使用圧力で使用する。

使用流体によって、以下の点に注意する。

- ・ 流体中の鉄錆・ゴミ等の異物は、作動不良・漏れ不良の原因となり製品性能を妨げますので、排除する手段を講じた上で使用してください。
- ・ 蒸気滅菌時等高温の流体を流す場合、バルブ本体も高温になるため、手や体で触れないでください。直接触れると火傷する場合がありますので、ご注意ください。
- ・ アクチュエータ上側(ダイヤフラム側)は流体が接触しない部分ですが、流体種類や流体温度の変化などにより浸透して流体雰囲気になる場合がありますので、ご注意ください。
- ・ スラリ、UV 硬化剤などのように粒子を含んでいたり、固形化、ゲル化するおそれがある流体の場合、性能に影響を及ぼす可能性があります。

目次

はじめに	i
安全にご使用いただくために.....	ii
製品に関する注意事項.....	iii
廃棄に関する注意事項.....	iii
設計、選定に関する注意事項	iv
目次.....	v
1. 製品概要.....	6
1.1 形番表示.....	6
1.2 内部構造、外形寸法図	7
1.3 製品仕様.....	8
1.4 動作説明.....	9
2. 取付け.....	10
2.1 設置の前に	10
2.2 設置環境.....	11
2.3 取付方法.....	12
2.4 配管方法.....	13
3. 使用方法	15
3.1 使用前の確認(施工後の確認)	16
4. 保守、点検.....	17
4.1 保守部品.....	17
4.2 定期点検.....	17
4.3 分解、組立方法	18
4.3.1 ダイアフラム交換前に	18
4.3.2 ダイアフラム交換手順 (19 ページ参照)	18
5. トラブルシューティング	20
5.1 トラブルの原因と処置方法.....	20
6. 保証規定.....	21
6.1 保証条件.....	21
6.2 保証期間.....	21

1. 製品概要

1.1 形番表示

SPD- 1 1 08 Y F 1

① シリーズ

② 作動方式

③ 接続口径

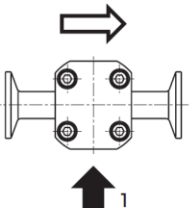
④ 接続

⑤ アクチュエータ・
ダイヤフラム・
ボディ材質組み合わせ

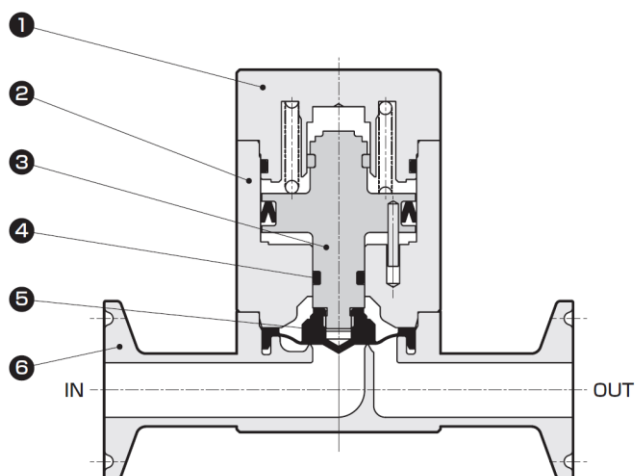
⑥ 操作ポート方向

機種形番

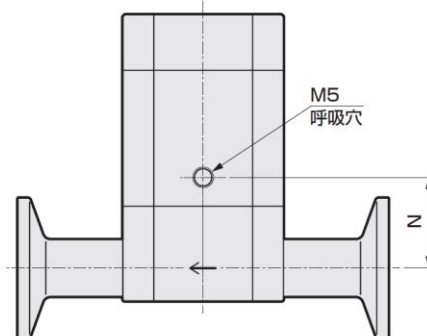
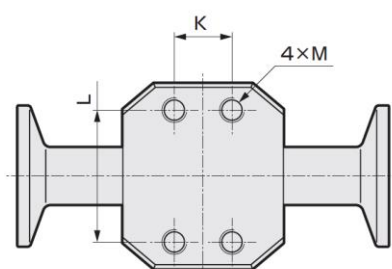
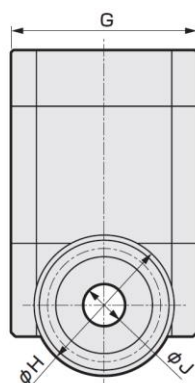
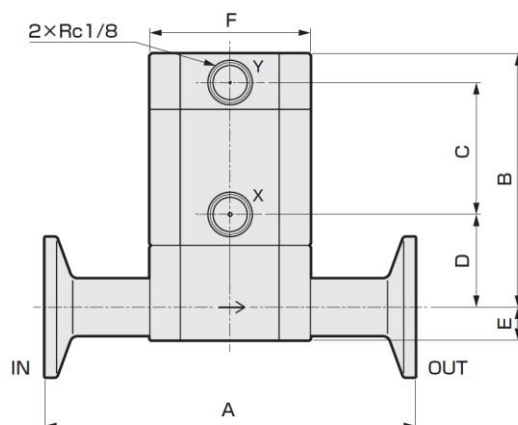
SPD-1
SPD-2

記号		内 容		01	02	
① シリーズ						
1	サイズ1	●				
2	サイズ2				●	
② 作動方式						
1	NC(ノーマルクローズ)形	●			●	
③ 接続口径						
08	8A	●				
15	15A				●	
④ 接続						
Y	クランプ継手	●			●	
⑤ アクチュエータ・ダイヤフラム・ボディ材質組み合わせ						
	アクチュエータ	ダイヤフラム	ボディ			
F	A5056	PTFE	SUS316L	●	●	
⑥ 操作ポート方向						
1	方向1	 バルブを上から眺め、 ⇨ 方向に流体が流れることを示し、 ⇨ は操作ポート方向を示します			●	●

1.2 内部構造、外形寸法図



品番	部品名称	材 質
1	カバー	A5056 アルミニウム
2	シリンダ	A5056 アルミニウム
3	ピストンロッド	A5056 アルミニウム
4	Oリング	FKM フッ素ゴム
5	ダイヤフラム	PTFE フッ素樹脂
6	ボディ	SUS316L ステンレス



形番	A	B	C	D	E	F	G	H	J	K	L	M	N
SPD-1108	90	61.5	32	22.5	8	39	45	34	10.5	14	32	M6深さ9	22
SPD-2115	108	81.9	39	30.9	12	48.4	56	34	17.5	20	42	M8深さ12	23.9

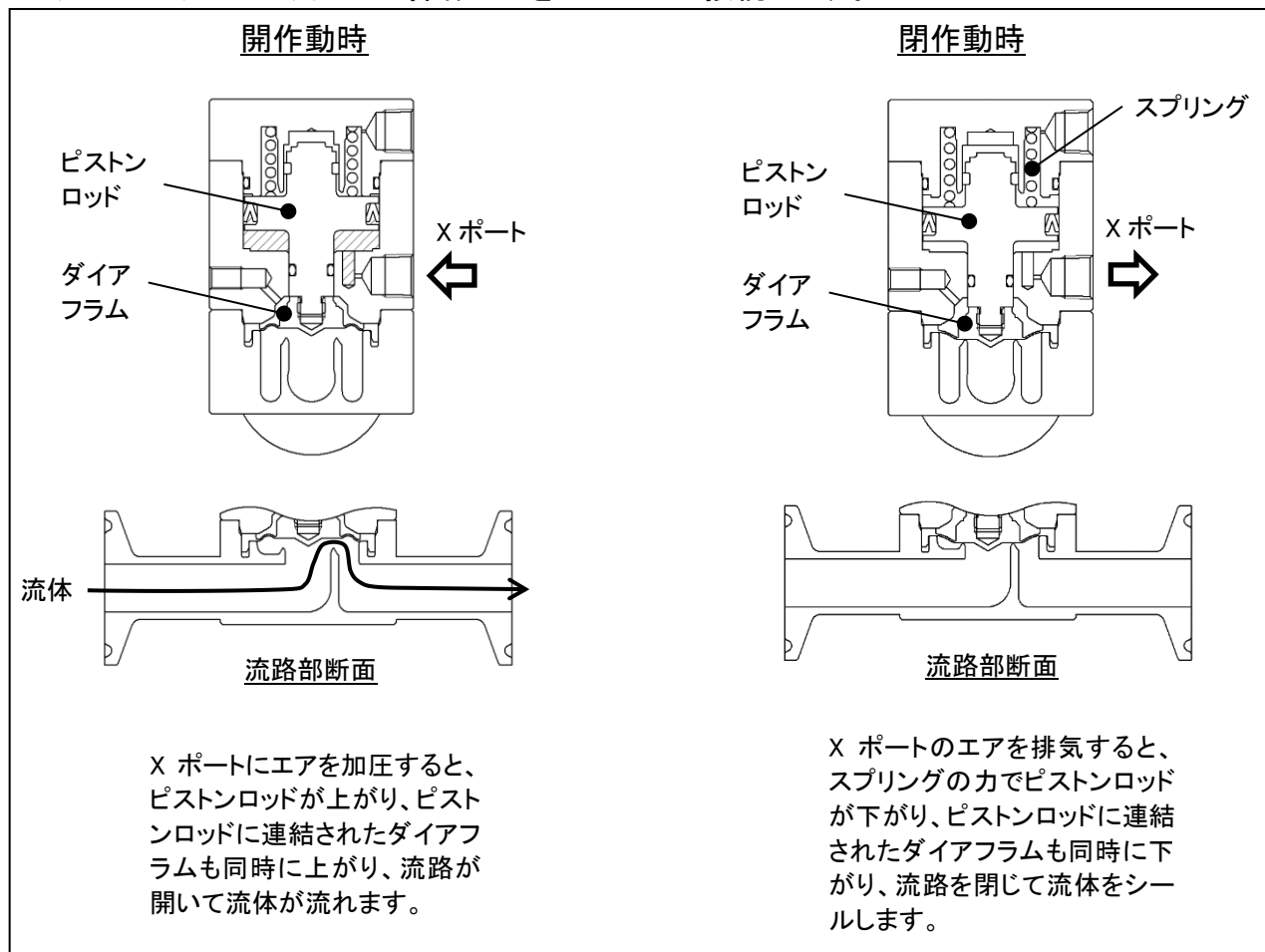
1.3 製品仕様

項目		SPD-1108	SPD-2115
作動方式		NC (ノーマルクローズ) 形	
使用流体		水、純水、薬液 (接駆部の材質を腐食させない流体)	
流体温度	°C	5～90 (蒸気滅菌時 130 20 分間以内可)	
耐圧力	MPa	0.9	
使用圧力	MPa	0～0.3	
背圧	MPa	0～0.1	
弁座漏れ	cm ³ /min	0 (水压にて)	
周囲温度	°C	0～60	
頻度	回/min	30 以下	
Cv 値		1.9	4.6
操作圧力	MPa	0.3～0.5	
操作ポート		Rc1/8	
材質	ダイアフラム	PTFE	
	ボディ	SUS316L (バフ研磨 #400 相当、電解研磨)	
	アクチュエータ	A5056 (陽極酸化処理)	

1.4 動作説明

■ポペット形ダイヤフラムバルブ

NC(ノーマルクローズ)形 — 操作エアを X ポートに接続します。



2. 取付け

2.1 設置の前に

注意

配管実施寸前まで配管ポート保護を外したり、本製品をビニール袋から出さない。

配管ポート保護を配管作業以前に外したり、本製品をビニール袋から出すと、配管ポートから内部に異物が入り、故障や誤作動などの原因になります。

設置前のバルブの分解は行わない。

保障期間内であっても、保守・点検の目的以外での分解は保証対象外となる場合があります。
また、異物混入等による不具合を誘発する恐れがあります。

- ・ ご注文の製品形番と製品に表示されている形番が、同一であることを確認してください。
- ・ 製品外部の損傷、ボルトの緩みなど製品に異常が無いことを確認してください。
- ・ 保管時は弁の内部に異物が入らないように個装箱のまま保管し、配管時に箱から取出してください。

2.2 設置環境

警告

指定仕様外または特殊な用途で使用する場合は、仕様について当社に相談する。

腐食性ガス・溶剤環境では使用しない。

亜硫酸ガスなどの腐食性ガス・溶剤の環境では使用しないでください。

多湿環境では使用しない。

温度変化により結露が発生する場合があります。

発熱体の近くまたは輻射熱を受ける場所では使用しない。

周囲温度範囲内で使用する。

注意

バルブ内部に粉塵が入らないように保護する。

周囲に粉塵などが多い場合は、バルブの排気ポートにサイレンサまたはエルボ継手を下向きに取付けて粉塵が入らないように保護してください。



- 寒冷地で使用する場合は、適切な凍結対策を実施してください。
- 本製品は屋外では使用できません。カバーやパネル内に設置して保護してください。
- バルブに振動や慣性がかかる環境では使用しないでください。

2.3 取付方法

⚠ 警告

取付け、配管は、システム、流体の特性、流体と関連機器との適合性など安全性に関する注意事項を十分に理解した人が、取扱説明書を熟読したうえで行う。

誤った取付け、配管は、本製品のトラブルのみならずお客様のシステムトラブルの発生原因になったり、使用者の死亡または重傷につながる可能性があります。

⚠ 注意

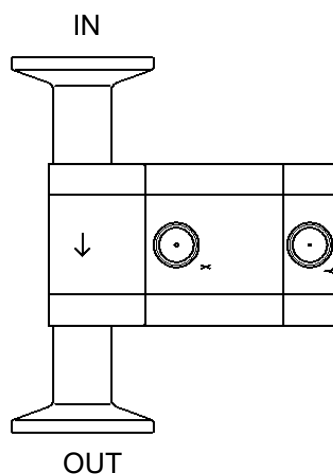
本取扱説明書を熟読し、内容を理解したうえで製品を取付ける。

製品の取扱い、取付けはボディをしっかり保持して行う。

取付後、配管漏れの有無を確認して、正しく取付けられていることを確認する。



- IN 側が真上に来るよう、バルブを垂直に配管することによりバルブ内の液溜まりを最少にすることができます。(図 1 参照)
- 保守やトラブルシュート時の安全作業を考慮して、十分なスペースを確保してください。



(図1) バルブ配管方向

2.4 配管方法

⚠ 注意

配管の締付け、配管接続をやり直すときは、製品を固定する。
 配管の荷重、振動がバルブに直接加わらないように、配管を固定、支持する。
 操作部の配管時には推奨トルク(表2参照)で締付ける。
 配管を行う際は、バルブ本体に曲げ・引張・圧縮等の応力が加わらないようにする。
 配管の重量、振動がバルブに直接加わらないよう配管の固定、支持をする。
 操作部の配管時にシール剤(シールテープ、ゼリー状シール剤)を過度に使用しない。
 アクチュエータ内部に入り込み、作動不良の原因となります。
 保守・補修作業を容易にするためにバイパス回路を設置する。
 配管接続が完了して流体を供給するとき、急激に高い圧力が掛からないようにする。
 配管接続が不十分な場合、配管が外れたり、流体が漏れる事故につながります。

■ 配管の清掃

配管の前には、ゴミや金属粉、さび、シールテープなどの異物を除去するため、0.3MPa 以上のエアでフラッシングを行ってください。

■ 異物の除去

流体中のゴミ、異物などは、作動不良や漏れの原因になるため除去してください。
 バルブの直前には、80～100 メッシュ程度のストレーナを取付けてください。
 また、操作エア回路には、5 μm 以下のフィルタを設置してください。

■ 操作部の配管

- 操作部の配管は表 1 に示す通りに行ってください。
- 排気ポートは配管をし、問題とならない場所で吸気・排気を行ってください。
- 操作ポートに接続する操作用電磁弁は仕様および用途に合わせて選定してください。
- 操作ポートに配管するときは必ずシリンダをスパナまたはパイプ等で固定しねじ込んでください。配管時の締付けトルクは表 2 を参考にしてください。

表 1 操作ポート及び排気ポート

操作ポート	排気ポート
X	Y

表 2 操作ポート配管の推奨締付トルク

配管の接続口径	推奨締付トルク(N・m)
Rc1/8	3～5

■ 操作エアのドレン対策

圧縮空気中には多量のドレン(水や酸化オイル、タール、異物など)が含まれています。これらは空気圧機器の精度を著しく低下させる原因になります。ドレン対策としては、アフタークーラドライヤによる除湿やフィルタによる異物除去、タール除去フィルタによるタール除去などで、エア質の改良を行ってください。

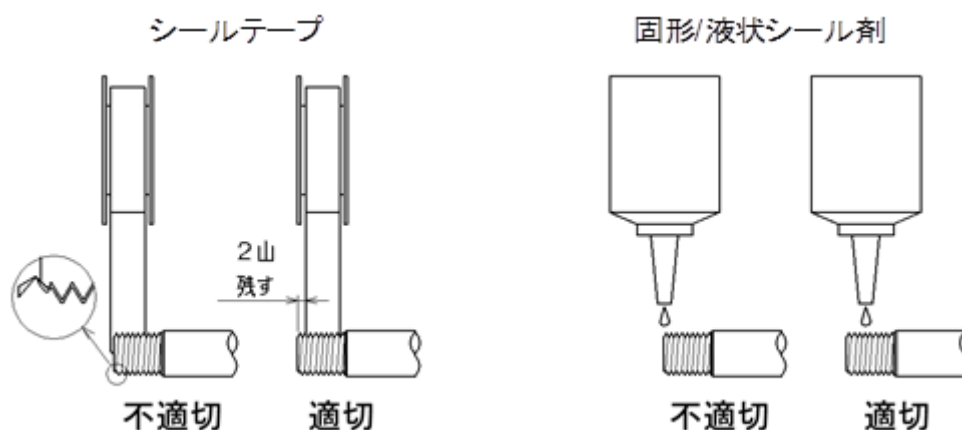
■ 本体への配管

- フェルール部寸法は ISO に準拠しております。適切なサイズのカスケット及びクランプを使用して組付けてください。

■ シール剤

シールテープまたはシール剤は、ねじ部分の先端から 2 山以上内側の位置に付けます。配管のねじ部分より先端に出ていると、ねじ込みによってシールテープの切れ端やシール剤の残材がバルブの内部に入り込み、故障の原因になります。

シールテープを使用する場合は、ねじの方向と反対方向に巻付け、指先で押さえてねじに密着させてください。液状シール剤を使用する場合は、樹脂部品に付着しないように注意してください。樹脂部品が破損し、故障や誤作動などの原因になります。また、めねじ側にはシール剤を塗布しないでください。



3. 使用方法

⚠ 警告

緊急遮断弁などの安全確保用バルブとしては使用しない。

本製品は緊急遮断弁などの安全確保用バルブとして設計されていません。そのようなシステムの場合は、確実に安全を確保できる手段をとったうえで、使用してください。

本製品が故障したときに人や物などに悪影響を与えないよう、あらかじめ必要な措置を実施する。

液封について

バルブが開閉作動する際にダイアフラムが上下動し、バルブ内の流路容積が変化します。従って、流体が非圧縮性（液体）である場合、バルブに流体が密封される条件（液封）での作動はバルブに異常な圧力を生じさせます。このような場合はバルブの 1 次側または 2 次側に逃し弁を設け液封の回路にならないようにしてください。

高温、蒸気での使用について

蒸気洗浄時等高温の流体を流す場合、バルブ本体も高温になるため、手や体で触れないでください。直接触れると火傷する場合がありますのでご注意ください。

⚠ 注意

急激な流体温度の変化に注意する

内部漏れが発生する場合がありますのでご注意ください。

アクチュエータ操作のエアは過度 5 μm 以上の性能を有するフィルタを通ったエアまたは不活性ガスを使用する。

操作エア圧力は規定の使用圧力範囲内で使用する。

バルブの加圧ポートの間違いがないかを確認する。(X ポート)

誤った操作部に圧力を加えると、ダイアフラム破損または作動不良を引き起こします。

1ヶ月以上使用しない場合は、始業前に試運転を行う。

1ヶ月以上使用しない場合は、内部に残留している水を完全に除去する。

水が残留していると錆が発生し作動不良・漏れ不良が生じることがあります。

残留水の除去ができない場合は、最適にご使用いただくため、1日数回程度作動させ通水してください。

バルブ作動頻度を守る。

バルブ作動頻度は 30 回/min 以下です。

操作エアの供給時間、または排気時間が短い場合は、バルブの作動が追従できないことがあります。

製品本体に流体が付着しないようにする。

流体圧力、配管条件に注意する。

流体の圧力、配管条件によっては、ウォータハンマやバイブレーションが発生する場合があります。

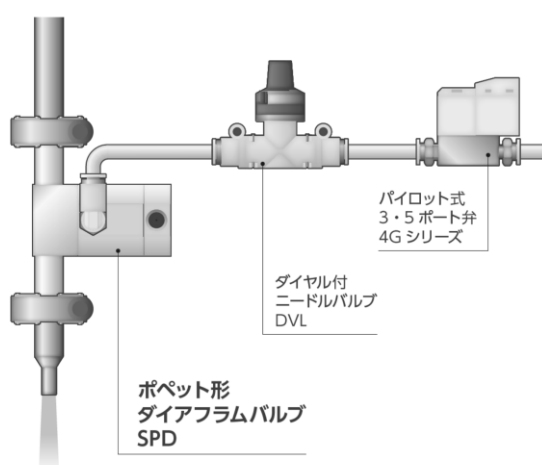
ほとんどの場合、スピードコントローラ等で開閉速度を調整することによって改善できますが、

改善できない場合は、流体圧力、配管条件を見直してください。

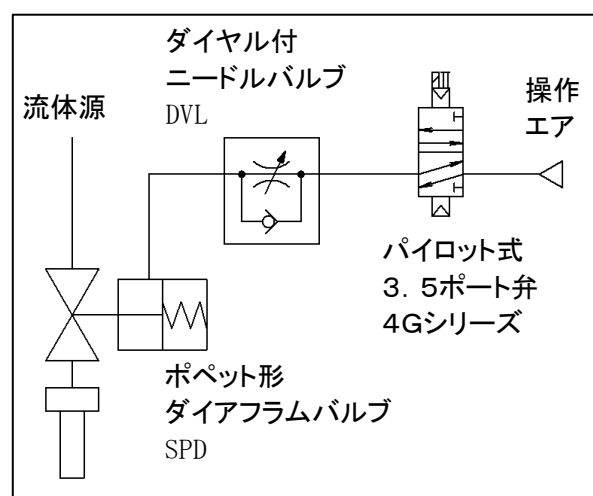
バルブを足場にしたり、重量物を乗せない。

＜液体充填用途での使用について＞

- バルブの流量特性、動作速度には個体差がある為、同じ時間でバルブを開閉しても充填量にはばらつきが生じます。充填量を高精度で管理される場合は、バルブ毎に充填時間や流量を調整してご使用ください。
- 関連商品のダイヤル付きニードルバルブ DVL-S-06- * -020 をご使用いただくことでバルブの開動作速度を調整し、ノズル先端での液切れ状態を調整することができます。(図 2、図 3 参照)
- 操作エア用の電磁弁は有効断面積を小さくし過ぎないように注意してください。有効断面積が小さすぎるとバルブの開閉動作速度に影響し、充填量や液切れが調整できない場合があります。
推奨有効断面積: 1.5mm²以上
- 充填量や液切れの状態は流体種類、使用条件、ノズル形状などにより大きく変化します。機器選定の際は最寄りの当社販売店、代理店にご相談ください。



(図2) システムイメージ



(図3) 回路図例

3.1 使用前の確認(施工後の確認)

⚠ 警告

外観確認は、元栓を閉じ、バルブ内の流体を排出させてから行う。

■ 外観の確認

- バルブが配管に確実に固定されていることを、手で押して確認します。
- 配管が確実にされていることを確認します。
- ねじ部品が緩んでいないことを確認します。
- 操作エア圧力に間違いがないことを確認します。

■ 作動の確認

流体を加圧する前に、操作エアを加圧してバルブが作動することを確認します。

■ 漏れの確認

- 操作エアを加圧状態にして、配管接続部の漏れを確認します。
- 流体を加圧状態にして、配管接続部の漏れを確認します。

4. 保守、点検

⚠ 危険

保守・点検は、本取扱説明書を熟読し、内容を理解したうえで行う。

保守・点検する前に、操作エア、流体の圧力を抜く。

バルブ交換時には、純水、エアなどで十分置換したうえで作業する。

残留した薬液により周りの機器、人に影響が無いようにしてください。また、バルブに触る際は、使用流体の安全データシート(SDS)をお読みになり、必要な保護具を着用してください。

分解・再組立を実施されると弁性能を維持できなくなる場合があります。

4.3 分解、組立方法の交換手順に従って確実に行ってください。

再組立後は、必ず試運転をしてください。

⚠ 注意

製品交換の際には、必ず同形番の製品を使用する。

同一外観でも仕様が異なることがあります。

直射日光が当たる場所や、高温となる場所では保管しない。

製品取扱の際は、投出し、投下、引掛け等による衝撃・傷等を与えないでください。

1ヶ月以上未使用の場合は、始業前に試運転を行う。

4.1 保守部品

⚠ 注意

分解・交換された製品及び部品、作業により発生した不具合については、保証の対象範囲から除外する。

■ ダイアフラム

使用中に漏れまたは作動不良、作動遅れなどの異常が認められたときに交換してください。

4.2 定期点検

■ 定期点検

- 点検内容は『3.1 使用前の確認(施工後の確認)』を参照ください。

■ 日常点検

- 半年に一回バルブを分解し、シール部の点検を行ってください。ご使用条件にもよりますが、1年に1度ダイアフラムの交換を実施することを推奨いたします。
- ダイアフラムの耐久性は流体の種類、圧力、温度、作動頻度により大きく異なるため定期点検の頻度はお客様のご使用条件を考慮して実施ください。
- アクチュエータの耐久性は流体温度やエア室により異なるため、定期的なメンテナンスを実施してください。

4.3 分解、組立方法

⚠ 危険

アクチュエータは分解しない。

高荷重のスプリングが内蔵されているため大変危険です。分解が必要な場合は当社販売店または代理店へご相談ください。

⚠ 警告

分解作業の前に元栓を閉じ、バルブ内の流体を排出する。

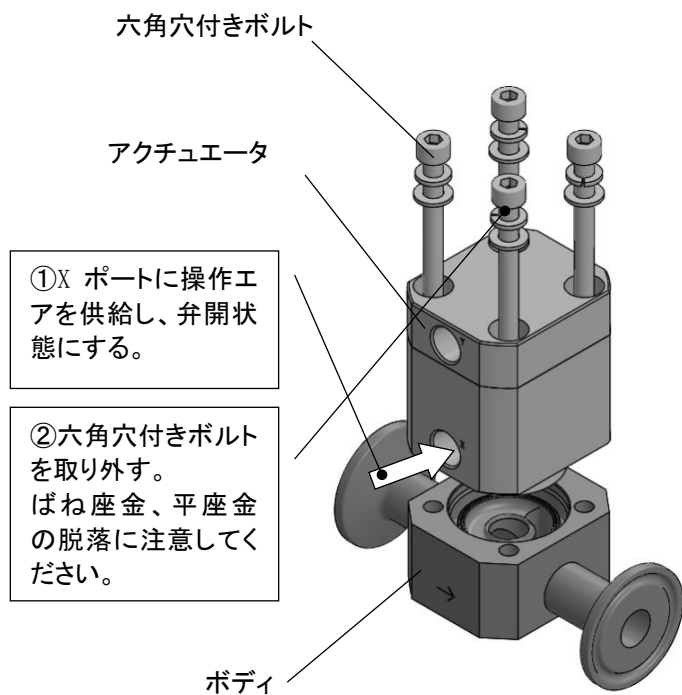
4.3.1 ダイアフラム交換前に

- 分解する前に必ず操作エア・流体圧を抜き、バルブ内に圧力が加わっていないかを確認してください。
- ダイアフラム交換時には、残留した流体により周りの機器及び人に影響のないように純水等で十分置換し、乾燥空気または不活性ガスでパージした上で作業してください。またバルブの流体通路部に触れる際は、使用流体の安全データシート(SDS)をお読みになり、必要な保護具を着用してください。
- 必ず指定のダイアフラムをご使用ください。

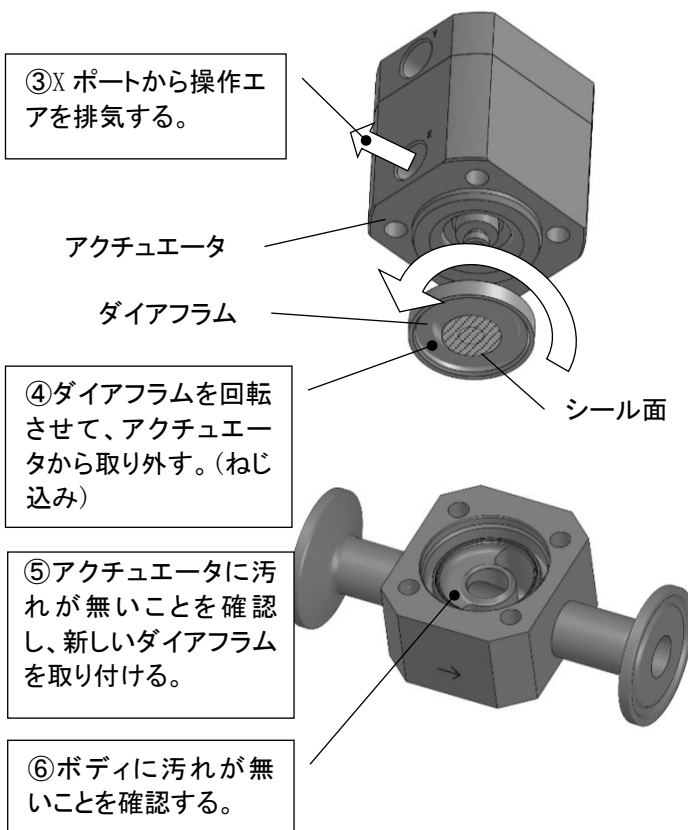
4.3.2 ダイアフラム交換手順（19 ページ参照）

- 1 流体、圧力がないことを確認した後、X ポートに操作エアを供給しバルブを「開」の状態にしてください。
- 2 六角穴付きボルトを緩め、六角穴付きボルト、ばね座金、平座金を取り外し、ボディからアクチュエータを取り外してください。六角穴付きボルトは新品に交換してください。
- 3 操作エアを排気し、バルブを「閉」の状態にしてください。
- 4 ダイアフラムを反時計方向に回転して、アクチュエータから取り外してください。
- 5 アクチュエータ取付位置に汚れ、傷がないことを確認して、新しいダイアフラムを取り付けてください。ダイアフラムを時計方向に軽くねじ込んでゆき、止まった所で力を加え増し締めしてください。このとき、ダイアフラムを締め過ぎないように、またシール面に手を触れないようご注意ください。
- 6 ボディのシール面、弁座に汚れ、傷、異物の付着がないことを確認してください。※これらの要因は漏れの原因となります。
- 7 (手順①)と同様に、バルブを「開」の状態にしてください。
- 8 アクチュエータをボディに軽く挿入してください。
- 9 六角穴付きボルトを対角に均等なトルクで締め込んでください。(締付けトルク: 3.4~4.2N・m)
片締めとならないよう、ボルトは対角上に徐々に締めこんでください。締め込みが不足するとシール力の分布が不均一となり、漏れが発生しやすくなりますので、トルクレンチ等でトルクを管理して締め込んでください。
- 10 アクチュエータとボディに隙間がなく確実にボルトが締め付けられていることを確認したら、操作エアを排気しバルブを「閉」の状態にしてください。
- 11 バルブの開閉動作を行い、スムーズに作動し漏れがないことを確認してください。配管し、流体を加圧して配管部から漏れの無いことを確認してください。

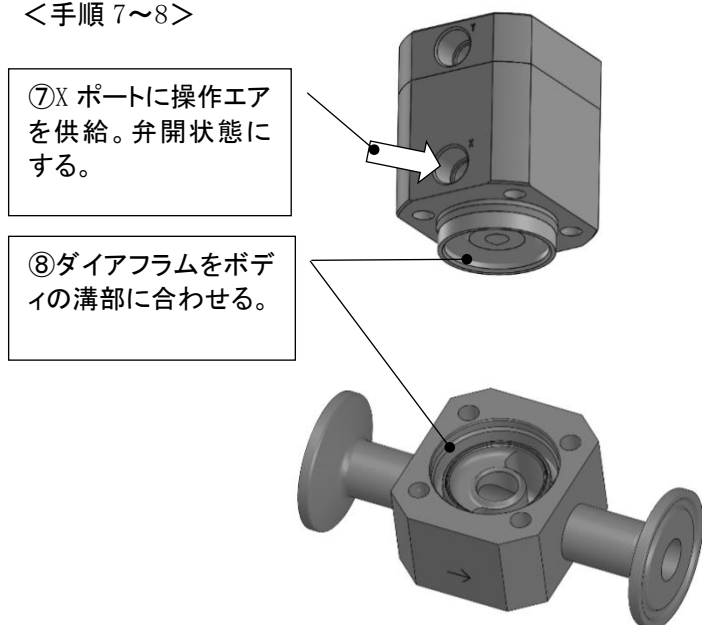
<手順 1～2>



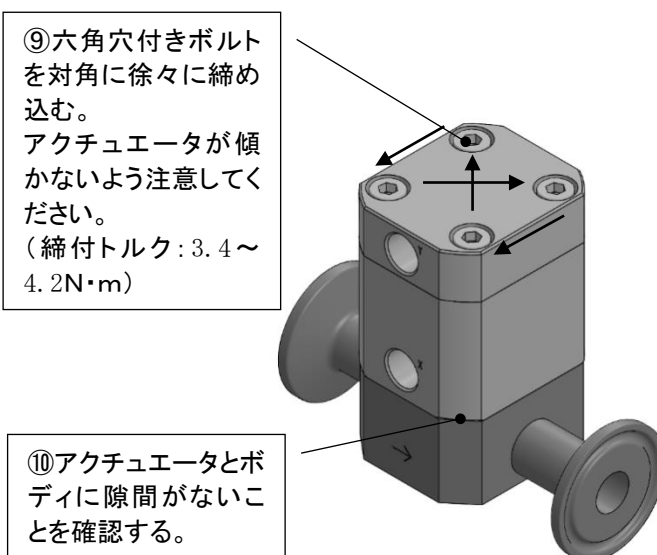
<手順 3～6>



<手順 7～8>



<手順 9～10>



5. トラブルシューティング

5.1 トラブルの原因と処置方法

本製品が目的どおりに作動しない場合は、下表に従って点検してください。

不具合現象	原因	処置方法
弁が閉じない、 または漏れている。	流体圧力が高い。	仕様圧力範囲で使用してください。
	操作用電磁弁の異常。操作エアが切り替わらない。	操作用電磁弁を交換してください。
	Y ポートが閉塞している。	大気開放にしてください。
	X ポートの操作圧が抜けない。	操作圧を抜き大気圧としてください。
弁が開かない、 または流量が出ない。	流体が供給されていない。	回路を確認して流体を供給してください。
	操作用電磁弁の異常。操作エアが切り替わらない。	操作用電磁弁を交換してください。
	Y ポートが閉塞している。	大気開放にしてください。
	操作圧が供給されていない。	X ポートに仕様範囲内の操作エアを供給してください。
外部への漏れ。	ボディの外部シール部に傷がある。	製品を交換してください。
	ダイアフラム内部シール面に摩耗・傷がある。	ダイアフラムを交換してください。
	ボルトが緩んでいる。	ボルトを適正トルクで締め込んでください。
2 次側の漏れ。	ボディの弁座に摩耗または傷がある。	ボディを交換してください。
	ダイアフラムシール面に摩耗または傷がある。	ダイアフラムを交換してください。
	ダイアフラムに異物がかみ込んでいる。	ダイアフラムを交換してください。
	ボルトが緩んでいる。	ボルトを適正トルクで締め込んでください。 ボルトを締め込んでも漏れが解消しない場合は、 ダイアフラムを交換してください。
操作エアの漏れ。	パッキン、O リングに摩耗または傷がある。	アクチュエータを交換してください。

※その他不明な点は、最寄りの当社販売店、代理店にご相談ください。

6. 保証規定

6.1 保証条件

■ 保証範囲

下記保証期間中に明らかに当社の責任と認められる故障が発生した場合、本製品の代替品や必要な交換部品の提供、または当社工場での修理を無償で行わせていただきます。

ただし、次の項目に該当する場合は、この保証の対象範囲から除外させていただきます。

- ・ カタログ、仕様書、本取扱説明書に記載されている条件・環境以外で取扱いしたり、使用した場合
- ・ 取扱不注意などの誤った使用、誤った管理に起因する場合
- ・ 故障の原因が本製品以外の事由による場合
- ・ 製品本来の使用方法以外で使用した場合
- ・ 当社が関わっていない改造または修理が原因の場合
- ・ 本製品を貴社の機械、装置に組込んで使用されるとき、貴社の機械、装置が業界の通念上備えられている機能、構造などを持っていれば回避できた損害の場合
- ・ 納入当時に実用化されていた技術では予見できない事由に起因する場合
- ・ 天災、災害など当社の責任でない原因による場合

なお、ここでいう保証は、本製品単体の保証を意味するもので、本製品の不具合により誘発される損害については除外させていただきます。

■ 適合性の確認

お客様が使用されるシステム、機械、装置への当社製品の適合性は、お客様の責任でご確認ください。

■ その他

本保証条項は基本事項を定めたものです。

個別の仕様図または仕様書に記載された保証内容が本保証条項と異なる場合には、仕様図または仕様書を優先します。

6.2 保証期間

本製品の保証期間は、貴社のご指定場所への納入後 1 年間といたします。